

中国と日本を結ぶ季刊誌

# かけはし

季刊 2016年秋号  
2016年10月1日発行(第1巻第2号)

## 「和して同ぜず」東北アジア書画展2016

東京に続き、モンゴルと北京でも開催

「越後妻有 大地の芸術祭の里」に初の中国アートベース

# かけはし

季刊 2016年秋  
2016年10月1日発行(第1巻第2号)

## 目次

### お便り募集のお知らせ

「かけはし」では読者の皆様の投稿を受け付けております。番組や冊子の感想のほか、中国旅行の思い出、エピソードなどをお便り・Eメールでお寄せください。

あて先

E-mail: riyubusns@126.com

郵便(中国): 100040 中国国際放送局日本語部「かけはし」編集部

01 回想の大地 .....王洋  
70年の時を超えて

04 「越後妻有 大地の芸術祭の里」に .....王小燕  
初の中国アートベース

06 世界無形文化遺産めぐり .....任春生  
福建の伝統音楽「南音」・影絵芝居「皮影戲」

08 秋の養生 .....劉叡琳  
「秋遊」、「秋凍」、「貼秋膘」

09 百家姓(苗字)物語 .....張怡康  
「銭」のはなし

10 漢詩歳時記 .....王洋  
「菊」 秋瑾

12 「和して同ぜず」 .....文化交流執行委員会  
東北アジア書画展2016

16 話 はなし 噺 HANASHI ...李順然  
魯迅と散歩

18 日本人スタッフのつぶやき .....星和明  
北京っ子のソウルドリンク〜北冰洋〜

20 新語で知る中国事情 .....任春生  
キーワードチャイナ

22 イチオシ中国映画・中国音楽 .....関亦氷  
22 映画編 23 音楽編

24 ようこそCRIへ  
長野工業高等専門学校 長野県短期大学

28 リスナーからのお便り



### 「かけはし」編集委員会

発行人 王丹丹

編集人 周 莉

梅田謙

編 集 潘 圓

王 帥

### かけはし編集部

中国北京市石景山区石景山路甲16号

中国国際広播電台日本語部内

電話 +86 10 6889 1272

E-mail riyubu@cri.com.cn

URL japanese.cri.cn

# 『回想の大地——70年の時を超えて』

■王洋



## 【あらすじ】

物語は、1935年ハルピン生まれの日本人・丸山巖さんがハルピン国際空港に降り立つところから始まります。

丸山さんは、この街で幼少期を過ごし、1946年、母親に連れられて日本に帰国しました。今では数少ない先の戦争を身を以て知る存在であり、それでいて非常に前向きな平和主義者でもあります。

「終戦間もない頃、自分たちの家族に援助の手を差し伸べてくれた恩人らにもう一度会いたい」。——その気持ちに押され、80歳を迎えた丸山さんは再び中国の大地を踏むことを決意します。そして今回、当時引き揚げの際に辿ったハルピンから葫蘆島までの、およそ1000キロにわたる記憶の道のりを自転車で遡ることを思い立ちました。

丸山さんが記憶を頼りに旅を進めるなか、当時百万人規模に及んだ満州引き揚げの輪郭が明らかになっていきます。それは、終戦後、敗戦国民として中国に残され、路頭に迷った105万に上る日本人が、共産党と国民党の合意と手配の下、葫蘆島から船で帰国するという大行軍だったのです。

丸山さんが当時の恩人に会うために自

転車の旅を続ける途上では、様々な中国の人々との出会いもありました。親切な中国の人々の手助けを受ける中、丸山さんは70年前の日々を思い出していきます。

時代を超えた中国の人々の素朴な心に感動した丸山さんは、自らの体験を基に本当の中国を伝え、誤解や齟齬を解消していきたいとの思いを強めるとともに、歴史の痛みを忘れず、今そこにある平和を慈しむことを訴えようと決心します。

## 【みどころ】

物語はハルピンから葫蘆島への道を軸に展開します。

その道は、当時日本への引き揚げのために辿った道であり、今回自転車で辿る道でもあります。この現在と過去をつなぐ道を進む丸山さんの心の中に、昔の思い出がよみがえります。

引き揚げの道のりは、70年前にまだ子供だった丸山さんが、その身を以て経験し、今も脳裏にありありと蘇る記憶の一部です。

かつて、入殖者として何の心配もない生活を送っていた戦時中の日々があった

こと、しかし戦後にはそれが一転、その苦しさから毎日石鹼を売って食いつなぐ日々となったこと、また、厳しい冬に苛まれた時には、中国の恩人らの手助けにより、一家が最悪の事態を免れたこと。そして、引き揚げの旅路では、葫蘆島への途上、前線をくぐり抜けたことや、家族と離れ離れになったこと、やっとのことで船で中国を離れたこと、丸山さんにとっては、どれもが脳裏に焼き付いて離れない真実の記憶です。

そうした思いから始まった今回の自転車旅行は、図らずもこの今年80歳になる丸山老人がかつて中国で経験した様々な思い出を追体験する旅となっていきます。

ハルピンでの恩人探しでは、当時を知る中国の老人とアーカイブ館の職員の助けを得ました。また、当時暮らした街では、当時のご近所の方から温かい出迎えを受け、思い出話に花を咲かせました。そして、自転車の旅の道中では、道に迷った時、パンクした時、食事の時、散髪の時、すべての場面で地元の人たちから温かい手が差し伸べられます。

旅路が進み、番組の後半部分では場面



が一転、丸山さんは深い思いに浸るようになります。当時と同じ場所を走る線路を前にした丸山さんの脳裏に、辛い記憶が呼び起こされたのです。その線路の走る場所こそ、当時日本軍が爆破し、侵略戦争を始めるきっかけとなった場所であり、また、入殖者らが中国に渡り、歩みを進めた地点であり、そして敗戦後には、そこは祖国から見放され、めいめに活路を見出すほかなくなった絶望の地でした。しかし、その一方では、中国の人々がそれまでの苦難を問わず、日本人の引き揚げへの道の安全を確保し、彼らに故郷への帰途を与えてくれた場所でもありました。

70年の時と、はるかな旅路は、わだかまりを解き放ち、考えを整理する貴重な時間と空間を丸山さんに与えました。この間に抱いた迷いや戸惑いもまた、長い旅の道のりに消えていきました。丸山さんが、自らの問いを胸に、その答えを探し続けたこの旅は、丸山さんだけでなく、その旅路に寄りそう画面の前の一人一人にその答えを示し、歴史への視点にも一つの答えを示しています。

中日両国の歴史には、憎み合いだけが存在した訳ではありません。日本にも、戦時中の歴史を直視し、平和を愛する人々がいます。日本の政治家らが歴史から眼差しをそらす行為を外交カードとして使い、真相を欺く手段としていることを憎む

人々がいます。丸山さんは、その旅路で自ら歴史に向き合い、その真摯な姿勢で全ての偽りの姿勢を正し、平和を希求する願いへと導いていきたいと、思いを強くします。

教会のハト、水遊びをする子供ら、優しさ溢れる中国の老人たち、収穫された作物、巣に帰るツバメらは、これまでそれぞれに何代もの時を刻み、これからもその営みを続けていきます。これらの生命を尊ぶ姿勢は、人類全てが備えているものであり、どの国に生まれ、如何なる理由で人生に苛まれているとしても、その人に与えられた試練は、一つ一つの生命をかけたえのないものになっているのです。

今年80歳の丸山さんにとって、この旅は最後の長旅となるかもしれません。しかし、丸山さんの戦争や生命に対する思いは、国や宗教を超え、この映像の中に永遠に刻まれ、その姿を目にする人々に引き継がれていくものとなるでしょう。

- 1.丸山さん手製の「チャリ旅」の看板
- 2.公主嶺駅で同駅周辺の昔の写真を見る様子
- 3.9・18 歴史博物館でメディアの取材を受ける丸山さん
- 4.葫蘆島で「恩」の字が刻まれた石碑をお参り
- 5.引き上げ地点である葫蘆島の海辺を70年ぶりに訪れる
- 6.9・18 歴史博物館で撮影班と記念撮影



## クランクインから丸1年、ついに作品公開へ

本作の中国語版は8月10日から、CCTVのウェブサイトであるCNTVのほか、新華ネット、人民ネット、国際オンライン、中華ネットなどのプラットフォームで同時公開されています。また、日本語、英語、韓国語、モンゴル語などのバージョンが制作されています。

これに先立って、同作の公開記者発表会が8月8日、北京で行われ、丸山さん本人も日本から駆け付け、会場の参加者らと撮影時のエピソードなどを語りました。恩返しの旅を敢行したことについて、「ハルピンで生まれ育った11年の間、たくさんの中国人に助けられた。年を取ったいま、生きているうちに昔の恩人たちにお礼を言わなければ、最大の後悔となるだろう」と話しました。

制作側の田玉紅・中国国際放送局副局長は発表会のあいさつで、「クランクインから今日まで1年余りの時間を費やした。作品内に反映されている残酷な歴史に対する反省、世界平和に向けた思考などは、すべて丸山さんが旅の中で感じたことを映し出したものだ。この作品は歴史的にも意義を持つ力作だ」とした上で、作品を通じて、「多くの人が戦争と平和、そして人につい

て深く考え、中日関係の友好発展のために、積極的な意味に富んだ貢献ができるよう望んでいる」との期待を示しました。

また同作の監督を務めた孫遠峰氏も登壇し、「こうして過去の歴史を記録するのは、憎しみを広めるためではなく、悲劇を繰り返してはならないと人々に呼びかけるためだ。生命の尊重は人類の共通認識だということを伝えたかった」と語りました。

『回想の大地～70年の時を超えて』日本語バージョン視聴アドレス：  
<http://japanese.cri.cn/2050/2016/09/27/142s253987.htm>

1. 公開記者発表会のステージに立つ丸山さん
2. 田玉紅・中国国際放送局副局長があいさつ
3. 監督の孫遠峰氏
4. 撮影当時を振り返り、思いを語る丸山さん
5. 主催側代表がドキュメンタリーのタイトルを書道作品にして丸山さんへ贈呈
6. 記者発表会での集合写真

■王洋プロフィールはP11をご覧ください。



# 「越後妻有 大地の芸術祭の里」に初の中国アートベース 「七月節」の開催で活動開始 「中国の皆さんとの交流が楽しみだ」と地元住民

■王小燕



左:奴奈川キャンパス 右:開園式の様子。一列目左から孫倩氏、鄔建安氏、何平総領事、関口市長、北川フラム氏

世界最大級の野外芸術フェスティバル「大地の芸術祭」の里・越後妻有(えちごつまり、新潟県十日町市・津南町を指す)に、中国のアートベースが初めて設立されました。「華園(中国ハウス)」と題した同施設の開園式とその主催による総合アート展「華園七月節」の開幕式が8月8日、新潟県十日町市にある旧・奴奈川小学校で行われました。式には「大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ」の総合ディレクター・北川フラム氏、中華人民共和国駐新潟領事館の何平総領事、十日町市の関口芳史市長のほか、「華園」の所在地である室野地区の関係者ら約100人が出席し、そのスタートを祝いました。

第1回七月節では、中国人アーティスト・鄔建安氏が越後妻有を訪れた後に創作した大型作品「五百筆」と「彩風」のほか、「24書店—ユースアーティストサポート計画文献展」の展示が行われました。開幕式には、有名キャスターで美食家でもある曹滌非氏がデザイナーの何海洋氏と共に北京から参加し、「立秋の献立」(貼秋膘/ティエ・チウ・ビャオ)をテーマに中国料理を作ったほか、瑠璃芸術家で茶人の梁明毓氏は手作りの瑠璃茶器を用いた

「奉茶の礼」を行い、中国茶を振舞いました。

「華園」プロジェクトは「大地の芸術祭」のコンセプトに魅了された中国の民間企業・瀚蔵文化(HUB ART PRODUCTION)の理事長・孫倩氏の推進により、約半年ほどの準備を経て実現に至ったものです。十日町市室野地区の廃屋を改造し、アート展やアーティスト・イン・レジデンス、舞台、民芸交流など多様な交流イベントの開催を目指します。孫さんは、「地方創生に現代アートを用いるという、日本で20年にわたって行われてきた実践に学び、その有益な経験を中国に持ち帰って参考にさせてもらいたい」とプロジェクトにかけた思いを明らかにしました。

開幕式では関口市長が、「奴奈川小学校は震災、廃校といった相次ぐ悲しい歴史を経て、奴奈川キャンパスとして生まれ変わり、大地の芸術祭を代表するスポットとなった。そして今回、華園七月節という素晴らしいイベントを招致することができた。このことは、室野の皆さんも本当に喜んでいると思う」と話し、「互いに力を合わせ、大成功させよう」と期待を寄

せました。

北川フラム氏は席上、「室野地区の一つの集落が中心になって、世界で最も大きな地域である中国、とくにその若い人たちとつながっていくことは本当に素晴らしいこと。この場所を提供して下さった室野の皆さん、この場所を選んだ中国の皆さんに本当に感謝している」と挨拶し、「華園の創設にかけた孫倩さんの誠意とエネルギーを全力で受けて、それに応えていきたい」と力強く表明しました。何平総領事は挨拶の中で、「アートベースの設立の歴史において、この華園は中国の企業が日本で行う、初めての試みだ。両国の政治的関係にいざこざが続く中で、文化と芸術を通しての交流こそが、相互の理解を深め、感情を増進できる」とプロジェクトの意義を高く評価しました。

中国からやってきたアーティストに対して、地元住民は温かい眼差しで受け入れています。室野地区の佐藤達夫区長(69歳)はCRIに対し、「中国人も日本人も1対1の交流では、なんら違和感を覚えることはない。このような山中にまで中国の方たちが来て、地域の人たちと交流しな

から作品をつくってくれ、交流できることは楽しみだ」と歓迎の気持ちを表明しました。

「越後妻有 大地の芸術祭」は2000年に始まり、3年に一度開かれるアートトリエンナーレです。越後妻有地域の約762平方キロメートルの大地を美術館に見立て、世界各国のアーティストと地域住民との交流と協力を通して、地域に根ざした作品が制作されます。その目的は、継続的な地域創生です。開催年のほかにも、毎年、様々な催しが開催されていることが特徴です。

華園は「七月節」だけでなく、季節に合わせた行事の定期的な開催により、今後も引き続き地元住民との交流をはかっていくということです。

◆中国人アーティストに聞く



鄔建安さん(中央美術学院)

—どのような気持ちで越後妻有に来ましたか。

日本は、破綻寸前の農村を救う一つの方法として現代アートを用いた地方創生に取り組んできました。中国も今、農村から若者がいなくなり、数多くの伝統工芸はその担い手を失って消滅の危機にさらされています。日本で20年前から始まっている試みに、参考にできることがたくさんあると思っています。

—室野の皆さんとの付き合いで受けた印象は？

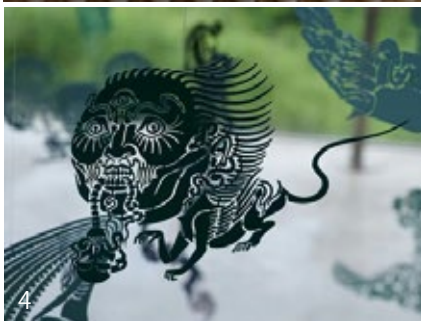
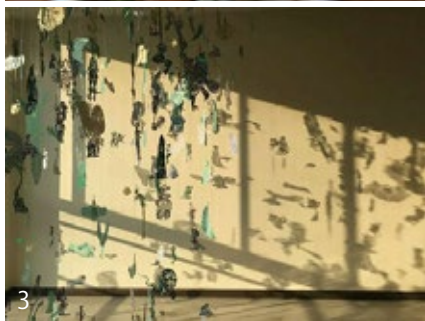
客好きで、礼儀正しく、心やさしい方ばかりです。私たちが来たことを本当に喜んでくれて、非常に印象に残りました。近くのお寺にお邪魔した時には食べ物まで出していたき感動しました。中国でも体験できないことばかりで、ありがたいです。



李偉さん(上海理工大学)

—大地の芸術祭の里に、中国のアートベースが出来たことをどう見えていますか。

アートは、生活に入り込んでこそ力強い作品を作ることができます。「華園」は、中国のアーティストに現地の暮らしを体験させ、日本のアーティストや地元住民と交流する機会を提供してくれる場です。そうして人と人との出会いにより生み出される成果を、今後も見守りたいと思います。



- 1、2.「立秋の献立」(貼秋膘ティエ・チウ・ビャオ)
- 3、4.鄔建安氏の作品「彩風」
- 5.鄔建安氏の作品「五百筆」
- 6.24書店—ユースアーティストサポート計画 文献展の様子



■王小燕 (おう・しょうえん)

1999年入局。

日本語部では火曜日の番組を担当。毎週ネットで更新している「CRIインタビュー」では、中日両国の交流に関わる各界の方たちにじっくりお話を伺います。

安徽省出身。北方工業大学日本語専攻卒、北京外国語大学日本学研究中心修了。

趣味は水泳、スキー、旅行。

中国の世界無形文化遺産めぐり

## 世界無形文化遺産 福建の伝統音楽「南音」

■任春生



世界無形文化遺産「南音」は福建省泉州を発祥地とする伝統的な音楽です。使われる楽器は、琵琶、二弦、三弦、洞簫、拍版などの他、チャルメラや鈴、銅鑼などの鳴りものもあります。歌詞には福建省南部の方言である閩南(ピンナン)語が用いられます。

南音の起源は304年の西晋時代に遡ります。この時代の内乱が原因で中原地方の漢民族は大規模な民族移動をしました。彼らがもたらした農耕や紡績の技術により閩南地域の生活様式が大きく変わったことが、南音の誕生につながったといわれています。

その後、唐代、元代、明代を経て、音楽理論の整備が進み、南音は固有の音楽として社会に定着してきました。

新中国が成立した後は、1970年代後半から復興活動が始まり、そして2009年10月1日、南音はユネスコの世界無形文化遺産に登録されたのです。

南音は閩南人の移住とともに東南アジアを中心に海外へも伝わりました。海外に渡った閩南人(華僑・華人)は南音を故郷の音と認識し、移住地と祖国を結ぶ絆としています。19世紀半ば頃から多くの泉州地域の人々が東南アジアへ移住し、それに伴って南音も各地域に伝わりました。

近年、中国経済の発展にともない、華僑・華人の社会的地位も向上したため、東南アジア各地でも南音に関する活動はより活発になっているようです。

南音の故郷である福建省泉州市は、有名な観光都市です。有名な観光スポットは開元寺(仏教寺院)、清浄寺(モスク)、天后宮(媽祖廟)など。また、地元のグルメとして、朝食の面線糊とB級グルメの焼肉粽がとても有名です。





## 世界無形文化遺産 影絵芝居「皮影戲」

2011年に世界無形文化遺産に登録された影絵芝居は、中国語で「皮影戲(ピーインシー)」といいます。紙、毛皮、木などに人や鳥獣の形を透かし彫にしたり、あるいは彩色を施したりして、それに灯りを当てて前方のスクリーンに影を投げ、歌や音楽、せりふに合わせて演じる芝居です。

内容は、歴史物語、民間伝承、忍者物語、ラブストーリー、神話など多岐に渡り、伝統的な水滸伝、三国志、西遊記のほか、新中国になってから生まれた「白毛女」、「林海雪原」などの演目もあります。

影絵芝居「皮影戲」の歴史は古く、一説によれば、唐代中晩期あるいは五代の時期(7世紀～8世紀)に始まったといわれています。

宋代になると、民間の文芸の1つとして隆盛を極めました。北宋の末期、金の国の

兵が梁(現在の河南省開封)を占領すると、一部の影絵芸人は金に捕えられ北方へと連れ去られ、やがて華北・東北の「北方皮影」の流派を形成しました。また、別の一部の影絵芸人は陝西・甘粛に逃げ、「西部皮影」の流派を形成しました。大部分の影絵芸人たちは、宋王朝の臨安(現在の杭州)への遷都にしたがって移動し、その後、広東・福建・台湾へと伝わり、山東・湖北・湖南を含む「中南部皮影」の流派を形成しました。そして13世紀、元王朝とともに、影絵芝居は、アジア大陸から中東まで伝わり、それぞれの地域に様々な形で根付いたのです。

影絵芝居の故郷の1つ・浙江省海寧市には、海寧市塩官鎮の銭塘観潮という世界でも珍しい景観があります。地元のグルメの代表格は、「甕肉(ガンロウ)」という肉

料理です。これは、詩人・蘇東坡(そ・とうば)が発明した肉料理・東坡肉(トンポーロウ)の原点になった料理であるといわれています。



### ■任春生

(にん・しゅんせい)

2003年入局。

中国の世界遺産巡り、中国の世界無形文化遺産巡りなどのシリーズ番組を担当、中国の歴史と文化を紹介。現在は番組「中国の旅・デラックス」を担当。

江蘇省塩城市出身。南京農業大学日本語科卒、北京外国語大学日本学研究生センター修了。



## 秋の健康管理「秋遊」「秋凍」「貼秋膘」

■劉淑琳

立秋が過ぎましたが、地域によっては容赦ない「残暑」が続きます。そんな中、「食欲が出ない」、「消化機能が低下している」、「元気が出ない」、「疲れやすい」といった症状を訴える人は多いことでしょう。季節の変わり目、体調を崩さないためにも秋の健康管理は大切です。

漢方の理論では、季節に順応することが重要だとされています。今回は、中国人の秋の健康管理の知恵と習慣をご紹介します。

■劉淑琳

(りゅう・えいりん)

2002年入局。ニュースキャスターのほか、毎週月曜日の番組を担当。「ライフマガジン」やネット更新中の「いきいき中国」で、最新のライフスタイルから、昔ながらの懐かしい暮らしまで、「生」の中国をお届けしています。

雲南省出身。北京第二外国語大学大学院日本語専攻修了。



### 秋遊～ 秋の遠足に出かけよう

「秋遊」とは秋の遠足やピクニックのことです。忙しく日々を生きる人々にとって、大自然の中に出かけて気持ちを静めることは、とても大切です。喜怒哀楽などの感情を静め、欲をコントロールすると、穏やかな気持ちを保つことができます。そのためには軽めの運動も効果的です。また、ちょっと高い場所から遠くを眺めると、解放的な気分になって心身ともに癒されますよね。山登りや紅葉狩りはお勧めの「秋遊」です。

### 秋凍～ 秋には薄着をしよう

秋になると、朝晩は冷え込み、日中の気温差が大きいため、天気の変化と個人的な体質に応じて着る物を調節し、風邪を予防することが重要です。しかし、早くから「厚着」する必要はありません。耐寒しながら体を鍛えること。これがよく言われる「秋凍」(秋には薄着)です。冷気で洗顔をしたり、足を洗ったり、鼻を洗ったりし、健康な人なら水風呂にも浸かります。適度な冷水は風邪の予防や鼻水、気管支炎などの予防に一定の効果がありますし、抵抗力や免疫力の向上にもつながります。

### 貼秋膘～ 秋こそしっかり食べよう

中国には、「貼秋膘(ティエ・チウ・ビャオ)」という、秋の養生の言葉があります。これは、秋に肉を摂取することで脂肪を蓄え、冬に備えるというものです。それ以外にも、食事の面では乾燥予防に留意し、水分を多めに取り、ゴマ、クルミ、蜂蜜、乳製品、蓮の実、大根など、保湿効果のある食べ物を多く食べることを薦めます。ただし、「民は食をもって天となす」とはいいますが、食べ過ぎは禁物ですよ。どの季節でも、バランスの取れた健康的な食習慣が大切です。

## 百家姓(苗字)物語 「錢」の巻

■張怡康

使用人口:220万  
人口ランキング:96位

諸説ありますが、「趙錢孫李周吳鄭」とリズムカルに始まる中国の苗字を記録した書籍『百家姓』は、北宋(960~1127年)の初めのころ、杭州のある人が、馴染みのある姓を504集めて、中国の伝統教育の過程で子供らに漢字を教えるために作った学習書の1つです。その中には、中国の代表的な姓が羅列されています。

このコーナーでは、『百家姓』の本に書かれた苗字を取り上げて紹介しています。今回は、本の中に書かれた二番目の苗字「錢」です。

文字通り、お金と関わりのある苗字で、中国古代の「五帝」と呼ばれる聖君(黄帝・顓頊・帝嚳・堯・舜)の中の顓頊の曾孫・陸

終一家と深い関わりがあります。陸終の妻が妊娠し、3年間も分娩しなかったため、帝王切開をしたところ、6人の赤ちゃんが生まれました。その中の三番目が中国でも有名な長寿を代表する人物——彭祖。彼はなんと、800歳まで生きたそうです。この彭祖には彭孚という子孫がいて、彼は西周時代に「錢府上士」という官職(今の財務部長にあたる)を担っていたことから、彭孚の子孫が「錢」の苗字を使い始めたということです。

錢姓の使用人口は中国人口総数の0.2%を占めていて、人数では220万人、人口ランキングでは第96位。浙江省、江蘇省と上海に集中しています。



■張怡康

(ちょう・いーかん)

2014年入局。初めて日本語に触れたのは1997年。日本語部では主に木曜日のラジオ番組、SNSプラットフォームの管理、ネットテレビ番組を担当。4月から新たに中国語講座番組「日本で実践!中国語」を開始、「日本で中国人と出会った時に使える中国語」をお届けします。

遼寧省出身。北京第二外国语学院日本語同時通訳専攻卒、ニューヨーク大学大学院修了。

### 【関連知識】 「錢」苗字の有名な人



錢学森



錢偉長



錢三強

中国で「錢」の苗字を使う有名な人といえば、「中国科学界の泰斗」と呼ばれる錢学森、力学者の錢偉長と原子核物理学者・錢三強の名前が最初に上がります。

中でも最も知られるのが「中国宇宙開発の父」錢学森。彼は2016年のG20サミット開催地である浙江省杭州の人。経済と技術の面で遅れる中国のため、アメリカに留

学し先進技術を学ぶなどして、やがて中国の宇宙航空分野の発展に大いに貢献しました。

錢学森と共に長距離ロケット開発の研究に携わったのは、力学者の錢偉長。江蘇省無錫出身の彼は、長期にわたって力学研究に従事し、中国のロケット工学の発展に貢献すると共に、中国近代力学の



基礎を築きました。

錢三強は、フランスへ渡りキュリー物理研究所で原子核物理学を学びました。その後、同じく物理学者である何沢慧夫人と共同で原子力の研究を続け、中国の原子爆弾開発に大きく貢献しました。

# 漢詩歳時記

■王洋・高橋恵子



## □作品原文と解釈

Jú Qiū Jǐn  
《菊》 秋瑾

菊 秋瑾

Tiě gǔ shuāng zī yǒu ào zhōng	てこつ そうし がちゅうあ
鉄 骨 霜 姿 有 傲 衷	鉄骨の霜姿 傲衷有り
Bù féng péng zé zhì tú xióng	ほうたく あ こころざしいたづら か
不 逢 彭 泽 志 徒 雄	彭澤に逢はざれど 志は徒らに雄ぶる
Yāo táo wǎng zì duō hán dù	ようとういたづらみずかた ねたみ ふく
天 桃 枉 自 多 含 妒	天桃枉らに自ら多として 嫉を含む
Zhēng nài huáng huā nài wǎn fēng	きはな ぼんふう た
争 奈 黄 花 耐 晚 风	いかでか黄花 晩風に耐へん

鉄骨のような凛々しい枝ぶりが霜に打たれている姿には、強い心が感じられる。

彭沢県県令だった陶淵明のような人物に出会わなかったので、いたづらに昂っている。

咲き誇った桃の花はことさら自慢するので、妬まれる。

どのようにして黄色い菊の花が夕暮れ遅くから吹き始めた風に耐えるのだろうか。

音声は <http://japanese.cri.cn/2066/2015/11/05/181s243020.htm> へ



## □ 作者紹介

秋瑾は清朝末期の女性革命家です。救国を志して日本へ渡りました。帰国後、浙江省で武装蜂起を計画しますが、失敗して処刑されてしまいます。役人の父と教養豊かな母に育てられ11歳で詩を書き始め、いつも杜甫などの詩集を手放さなかったといひます。詩人であり、革命家。相反するようでもあります。この詩をみるとその2つが融合しているように感じます。菊の花の枝ぶりを鉄骨に例えるのは、彼女ならではかもしれません。傲衷は、強い心、雄雄しい心中のこと。彭澤は詩人、陶淵明が県令を務めた地名です。夭桃は咲き誇った桃の花、黄花とは黄色い菊の花のこと。この詩の中に「菊」の文字はできませんが、「菊」というタイトルからこの花が菊であることが容易にわかります。春に咲く桃の花と秋の代名詞、菊の花。対照的な2つの花は、菊が作者自身だとすると、桃は何を指しているのでしょうか。

本来は若い女性などを象徴しますが、作者も若い女性であり、革命家であることから、恵まれた階層の女性でしょうか。お酒で有名な浙江省の紹興を訪ねた時、秋瑾の記念館を見学しました。また、今回、この詩を読んでもう一步、秋瑾という女性に対する理解が深まったような気がします。

### ■ 高橋恵子(たかはし・けいこ)



学生時代からアナウンサーの仕事をして早35年。  
日本語部で働くのは93年～95年に続いて2回目です。  
この番組「漢詩歳時記」は2013年から始まり気が付けばもう3年です。歳時記のタイトルにふさわしい漢詩をみつけると「やったあ！」嬉しくなります。高校時代ちんぷんかんぷんだった漢詩も今読むと「そうだよ」と共感したり、情景が目には浮かんだり。歳とるって、いいですね。

### ■ 王洋(おう・よう)



2005年入局。2010年2月から2014年7月まで東京支局勤務、現在はニュースキャスターのほか、毎週水曜日の「中日交流カフェ」番組を担当。電波で結ばれた人々との絆、新たに広がりつつある友情の輪、「草の根」の交流の第一線で活躍している人々の声に耳を傾けます。  
北京市出身。北京第二外国語大学日本語学部卒。

# 「和して同ぜず」東北

東京に続き、モンゴ

「『和して同ぜず』東北アジア書画展」は、中国アジアに位置する五カ国(中国・日本・韓国・朝鮮)を深めていくことを目的としています。

2015年9月に北京市で、11月に湖北省と大阪今回は、本誌夏季号でご紹介した4月の東京展に

## モンゴル篇

「『和して同ぜず』東北アジア書画展・2016モンゴル」は8月16日から21日にかけて、モンゴルのウランバートルにある中国文化センターで行われ、中国、モンゴル、日本、韓国、朝鮮5カ国から書道作品や絵画作品が100点近く出展されました。

開幕式には、在モンゴル中国大使館やモンゴル教育文化科学技術省、中国国際放送局の代表及び中国、モンゴル、日本から参加した芸術家たち、合わせて200人近くが出席しました。

在モンゴル中国大使館の楊慶東公使

は、挨拶で「今回出展された作品は、どれも色とりどりの東洋の文明を反映している。この展示会はただ作品を展示するだけでなく、東北アジアの人々の寛容で調和のとれた関係を表している」と述べました。



1. 作品を鑑賞する出席者(右からCRI東北アジア・中央アジアセンターの張暉副主任、中国大使館の楊慶東公使、詩人の蔡祥麟氏) 2. 全日本中国水墨芸術家連盟運営代表の宇俊之氏による揮毫 3. 中国・日本・モンゴルの芸術家らの共同作品「蘭韻竹石図」 4. 学生たちに水墨画を教える中国人画家・呉亜文氏 5. 日本の書道家・小林芙蓉氏の作品「光」 6. 内蒙古の書道家・孟和氏(左)のモンゴル文字作品「馬」と小林芙蓉氏(右)

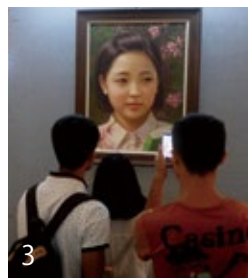
# アジア書画展2016

ルと北京でも開催

■文化交流執行委員会

国際放送局が企画・主催する国際展覧会です。東北・モンゴル(国)の芸術家が作品交流を通じ、互いに理

でそれぞれ開催し、2016年は3カ国で展開しました。続き、8月のモンゴル展と9月の北京展の様子をお届け



1.北京展開幕式に中国・日本・韓国・モンゴルの関係者が出席 2.作品を鑑賞する出席者 3.朝鮮人画家・趙光日氏の作品「少女」 4.小林芙蓉氏による揮毫 5.中国・日本・モンゴルの芸術家の制作実演 6.芸術家の共同作品を披露(左からモンゴルのザヤトゥ氏、東北アジア中央アジアセンターの張暉副主任、中国の呉齊氏、日本の小林芙蓉氏、日本の田仲勇一郎氏、中国の鄧良華氏)

中国国家新聞出版広電総局美術家協会と中国国際放送局東北アジア・中央アジアセンターの主催により、「『和して同ぜず』東北アジア書画展・2016北京」は9月6日から14日にかけて、北京民族文化宮で行われました。中国、日本、モンゴル、韓国、朝鮮からの作品およそ120点が出展されました。

開幕式には国家新聞出版広電総局、中

国国際放送局、国家書画院、中国駐在の日本大使館、モンゴル大使館、韓国大使館、及び各国の芸術家や各界の関係者など、およそ200人が出席しました。

日本から参加した書道家の小林芙蓉氏は、「モンゴル、韓国、朝鮮、日本でもそれぞれ書道は発展したが、その原点はやはり中国にある」と話した上で、「自国の殻に閉じこもることなく、他国の良いところをう

まく取り入れることができれば、文化はより発展し、成熟する。中国とモンゴル、韓国、朝鮮、日本の5カ国が良い関係を築き、お互いがお互いの良いところを取り入れ、それぞれの文化をさらに豊かなものにしていくことができれば、きっとより素晴らしい世界になるだろう」と述べました。

## 北京篇

錦風  
禪雅  
氣園  
滿君  
子情  
歲次  
丙申  
秋月  
於京西  
天和景  
園新居  
畫記



吳齊 作「四君子圖」(200×360cm 2016年)





# 話 はなし HANASHI 噺

■文 李順然 ■絵 張紅

## 魯迅と散歩

秋の北京の散歩コースとして、今回は北京で長く暮らした文豪魯迅(1881~1936年)がよく足を運んだ琉璃廠とその周辺のコースをご紹介します。

## 琉璃廠と四庫全書

北京に琉璃廠と呼ばれる街があります。文字通り、昔は皇室関係の建物に使う琉璃瓦を焼く窯(かま)が軒を連ねていたところです。都を北京に置いた明王朝の永楽帝(1360~1424年)のころが全盛期だったようです。皇室関係の建物の造営も一段落したあと、清王朝の康熙三十三年(1694年)に琉璃廠は閉鎖され、この一帯は荒地となり、あれやこれやの露店が姿を現しました。そのなかで、目立って繁盛したのは、本屋と文房四宝(紙、筆、墨、硯)を扱う店や骨董屋でした。

なぜ繁盛したのでしょうか。清王朝の乾隆帝(1715~1795年)が始めた『四庫全書』の編纂という大文化事業と大いに関係があったようです。『四庫全書』は古今東西の書籍から精選した良書を一字一字筆写させ、あわせて三千四百五十八種、約八万卷。しかもさらにそれをそれぞれ七部筆写して各所に保存するという気が遠くなるような大事業なのです。

この大事業を完成させるため、乾隆帝は中国各地から大量の知識人を北京に集め、琉璃廠に近い宣武門一帯に住ませました。こうした連中はみな「本の虫」、そして筆や墨、硯は彼等の必携の道具。ごくごく自然に、この人たちは琉璃廠の常客となったのです。

## 琉璃廠文化街

それから三百余年、今でも琉璃廠は本の街、文房四宝の街、骨董の街として知られ、文人に親しまれています。日本の仙台医専(現在の東北大学医学部)に留学したことのある中国の文豪魯迅(1881~1936年)も、北京で暮らした足かけ十五年ほど(1912~1926年)よくここ琉璃廠に足を運んでいたようです。その日記に琉璃廠という文字が頻りにでてくるのです。本や書、拓本を買ったり、ときには骨董屋で古銭や古鏡などを手に入れたり……。本屋の主人や店員、そこで出会った「本の虫」と語らうのが楽しみだったようです。

琉璃廠では中国の文人だけでなく、外国の文人、とりわけ日本の文人の姿をよく見掛けます。早くはもう百年近くも昔、一九二一年に北京を訪れた作家の芥川竜之助(1892~1927年)が琉璃廠で本などを買物しています。その後も琉璃廠を訪れる日本人は絶えたことがありませんが、一九七三年には作家の瀬戸内寂聴(1922~)さんが、当時八十八歳だった歌人土岐善磨(1885~1980年)さんのお供をして琉璃廠を訪れ硯を買っています。瀬戸内さんは当時の琉璃廠の様子を「ちょっと寂れた感じ」と話していますが、それもそのはず、瀬戸内さんが琉璃廠を訪れた一九七三年は例の「文化大革命」の真只最中。「文化大革命」という「革命」なるものの「対象」は「四旧」(搾取階級の旧思想、旧文化、旧風俗、旧習慣)。琉璃廠は「四旧」の集大成。博物館のような所で、「文化大革命」が始まると看板を下ろす店も多く、開いていても「開店休業」、まったく「寂れた感じ」でした。造反派、紅衛兵に看板を壊されたり、焼かれたりした店もあったようです。

十年も続いた「四旧」を極悪とする「文化

大革命」にピリオドが打たれたのは、一九七六年の十月でした。これを合図に「四旧」に恋い焦がれていた連中が、また琉璃廠に集ってきました。隠していた看板をとり出して店頭に掲げる店、リニューアルして再出発の店、新規開店の店……東琉璃廠と西琉璃廠街を仕切る十字路には、中国的な風格を備えた立派な歩道橋が架けられ、東西あわせて千メートルほどの東西琉璃廠街が文字通り張紅さんのさし絵にある一条街(一本の通り)、活気に満ちた琉璃廠文化街となったのです。



## 琉璃廠文化街散歩

琉璃廠の散歩は、西琉璃廠街から始めましょう。ここでいちばん名の知られているのは、古美術品、中国書画、版画、文房四宝などを手広く扱っている老舗『榮宝齋』(1894年開業)でしょう。『榮宝齋』の便箋を魯迅は愛用し、この店とは懇意だったようです。西琉璃廠街の入口の近くにあるので、タクシーで駆け付けて、ここでちょっと買物をするだけで立ち去る人もいます。ちょっともったいない感じです。

「琉璃廠三日居ても去り難し。店見れば入りたくなり、入ればあの絶品、この佳品、見飽きることなどありません」ということばがあります。「走馬看花(馬の上からの花見一ざっと見て歩くということ)でもいい、藍天白雲の秋のひとつき、琉璃廠文化街を気軽に散歩し、北京の秋を楽しんでいただきたいものです。

西琉璃廠街をさらに「走馬看花」で西に向い北柳巷という通りにぶつかったら回れ右、ここが西琉璃廠街の終点なのです。今度はいまた道を東に引き返し「走馬看花」、南新華街との十字路で歩道橋を渡ると東琉璃廠街に入ります。歩道橋を降りた所にある『汲古閣』、出土文物の複製品や民芸品など、安いものから高いものまでいろいろ並んでいます。ここをちょっとのぞいたら、今度は東に向って「走馬看花」、琉璃廠の店の看板は趙朴初氏ら中国一流の書家が揮毫した見事なものも多く、これを楽しみながら散歩するのもいいでしょう。琉璃廠東街には終点という標識もなく、ごくごくすなりと楊梅竹斜街という胡同に流れ込みます。

## 楊梅竹斜街漫步

楊梅竹斜街、ここはわたしの大好きな胡同です。昔は楊梅竹斜街に入った所に『青雲閣』という本屋があり、魯迅もよく足を運んでいました。城内(北京が城壁で囲まれていたころ、その内側を指す)の貴族や役人、金持ちが多く住む胡同はとかく門構えとか格式張ったものが多いのですが、ここはきわめてオープンでシンプル、門構えも簡素で、その門の前の電柱に縄を張って、布団や洗濯物が干してあったり、買物がえりのおばさん連中が門のわきで買ったものを取りだして値くらべをしていたり、時おり磨ぎ屋さん(家庭の包丁などを磨ぐ)や網戸の修理屋さんなどの、のんびりした振り売りの声が流れてきたり……庶民の生活の匂いが漂っています。

この胡同の一角に、長さ五十メートル足らずの狭い袋小路の胡同があります。地元の方は王府井大街や前門大街など北京のメインストリートに敢然と挑戦し、百年も前から「一尺大街」と胸を張って名乗りを上げて市民権を獲得しています。いまでも、ちゃんと地図に載っているのです。ここを

通るたびに、ここで暮らす北京っ子の意気と諧謔(かいぎやく)の心に敬服しています。

## 大柵欄の人の波

秋の陽を背に受けながら楊梅竹斜街を「走馬看花」していると、突然蜃気楼のように商店街が出現します。北京でいちばん賑やか、いちばん人通りが多いといわれる商店街「大柵欄」です。ここには漬けもの屋『六必居』(1530年開業)、漢方薬店『同仁堂』(1669年開業)、布ぐつ屋『内聯陞』(1870年開業)……といった老舗が軒を連ねています。お茶を飲ませる茶店もあり、映画館や芝居小屋もあります。

『内聯陞』『瑞福祥』……、魯迅の日記によれば、魯迅は『内聯陞』で靴を、また『瑞福祥』では服を買うなど、この一帯で買物をしています。魯迅もきつと琉璃廠から楊梅竹斜街を抜け大柵欄に来て買物をしたのだらうと思います。一本道なのです。北京に住んでいたころの魯迅は三十二歳～四十六歳の働け盛り。北京大学、北京師範大学、北京女子師範大学などで教鞭をとる一方で、「狂人日記」「阿Q正伝」「祝福」「故郷」などの代表作を連発しています。また、「中国小説史略」(上下)を書き、「現代日本小説集」の翻訳も手伝っています。

琉璃廠、楊梅竹斜街、大柵欄—その日記の行間からみると、この散歩コースは魯迅のお気に入りだったようです。琉璃廠の本屋で本をさがし、また店主や客と膝をまじえて語り合う愉しみ、楊梅竹斜街の素朴な

佇まいとそこに漂う和の心に酔い、大柵欄の雑踏に揉まれながら買物を楽しみ……、これらすべてが魯迅に心地よい憩いの場を与え、その創作意欲を支えてくれたのでしょ。わたしは、このコースを散策するたびにそう思うのです。大好きな散歩コースなのです。

秋到来琉璃廠街客万来  
秋晴れや大柵欄の人の波



■李順然(り・じゅんぜん)

中国国際放送局日本語部に50年勤続したOB。趣味は本、雑誌、新聞などの「雑覽」。



■張紅(ちょう・こう)イラスト担当

中国大手出版社三聯書店のベテランアートディレクター。趣味は水泳、登山。



新物屋「瑞福祥」。  
1870年開業。最初  
のちっぴけな話から、  
刺・毛皮・革の種で全  
国に名を馳せる名店となる。

日本人スタッフの  
**つぶやき**  
在中日本人の生活日記  
■星 和明

**北京っ子のソウル  
ドリンク～北冰洋～**

北京には老若男女に愛されているソウルドリンクなるものがあります。

それが北冰洋(běi bīng yáng)です。

北冰洋とは、中国語で北極海という意味です。そのため、しっかりと堂々たる白熊が描かれています。街角で、外でも中でもよく見かける炭酸飲料水です。



可愛い北極熊ロゴ



一番よく見かける瓶タイプ

味のラインナップは4種類。瓶と缶があり、飲食店は瓶、スーパーでは缶の販売が主流のようです。今回はCRI近くのスーパー(中国語では超市)で揃えました。



左から酸梅湯、桔汁(ミカン)、橙汁(オレンジ)、炭酸水

紫色の缶は酸梅湯(suān méi tāng)味です。酸梅湯は、中国では伝統的な暑気払いの飲み物で、梅を使っていてあっさりしているながら、消化を助けてくれる効果もあると言われています。その味が炭酸の爽快感とともに味わえます。

青い缶は糖分が一切入っていない炭酸水で、そのまま飲んだり、割りものとしても使えます。

そして一番気になるのが、「ミカン」と「オレンジ」の微妙な2種類です。並べてみてわかりますが、オレンジ色とオレンジ色。同じ暖色でありながら微妙に色が違う。さらに味の違いは「ミカン」と「オレンジ」でこれまた微妙に違う。この差はとても気になります。



北冰洋を味わう星アナ(左)と梅田アナ(右)



ミカン味(左)とオレンジ味(右)の中身

色は缶の配色と同じように左のミカン味が若干濃いように見えます。続いて味です。

左のミカン味は、柑橘特有の爽やかな甘さがありますが、どこかしら酸味が残るので、皮も含めてまるごと閉じ込めたような印象です。

一方、オレンジ味は、柑橘系の香りがするものの、あっさりとした甘みなので、食事をしながらどこちらの方が合うかもしれませんね。

今回、じっくりと味わいながら飲み比べを試しましたが、総じて言えるのは「どこか懐かしい味」ということです。

子どもの頃に家や外、家族や友達と飲んだような、夏休みの冷蔵庫には麦茶が定番というようなノスタルジーを感じさせます。

北冰洋は北京でしか楽しめない味ですが、市内なら手軽に手に入れることができます。お店によりますが、値段は一つ5元(日本円:75円ほど)くらいで、非常にリーズナブル。北京にお越しの際は、郷愁のソウルドリンク北冰洋をぜひお試しください!



■星 和明(ほし かずあき)

2015年入局。主な担当は、番組「ハイウェイ北京」木曜日、ニュース校閲、日本語発音指導、映像番組出演など。また、日本語部Facebookページでは番組宣伝動画「30秒で番宣」を隔週配信。

中国に降り立った初日から今でも、毎日楽しく北京生活を満喫中! 北海道出身。青山学院大学文学部日本文学科卒業。元青森放送アナウンサー。

■新語で知る中国事情

# キーワードチャイナ

■謝東

## biǎo qíng bāo 表情包

スタンプパッケージ

「表情」は表情だが、ここではチャットアプリでの会話に挿入できるイラストやアニメーションを指す。日本の定番「LINE」でいえば「スタンプ」、中国の「微信(WeChat)」では「ステッカー」のことだ。「包」はパッケージで、「表情包」で1つのテーマで作られたステッカー(スタンプ)のセット。

「表情包」はソーシャルサイトやアプリから始まったサブカルチャーで、今売れている芸能人や話題の言葉、アニメ、映画のキャプチャーなどを素材にして、特定の感情、感謝、感激、謝罪、期待や挨拶などを表す。今年は、リオ五輪で話題になった選手の表情や語録を題材にした「表情包」が人気を集めた。



# 表情包

## hǎi táo 海淘

「海」は海外、「淘」はたくさんある中からいいモノ、或いは、自分が必要とするものを汲み出すという意味。中国最大のショッピングサイト「淘宝」の「淘」もその意味である。「海淘」はつまり、海外からモノを買うことをいう。

「海淘」では主にインターネットを通じて海外のショッピングサイトで商品の情報を検索し、クレジットカードで決済する。そして、EMSのような配送会社や配送代行会社を使って商品を送ってもらう。中国では、「海淘」をサポートするネットサービスやアプリが近年、多く出てきている。

これまでは、「海淘」の関税のルールが不明確で、同じ商品でも海外で買ったほうがかなり安いケースがあり、「海淘」する人が増え続けてきた。しかし、クロスボーダー電子商取引小売輸入税と荷物・郵便物輸入税が調整され、2016年4月8日に税金が上がったため、「海淘」商品の値上がりが始まっている。



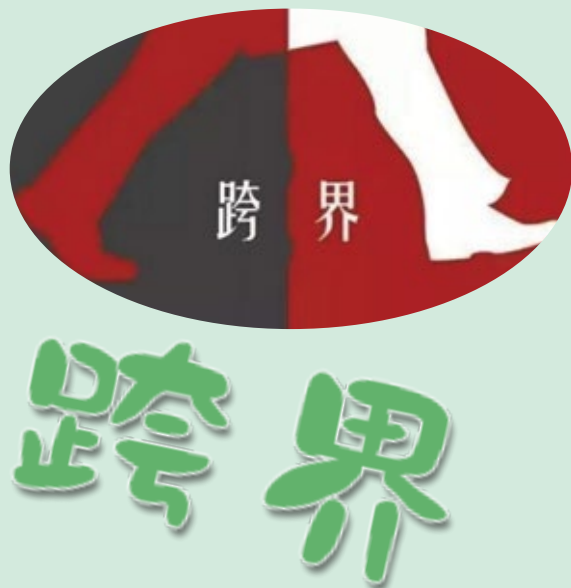
# 海淘

# kuà jiè 跨界

異なるジャンルを融合させる「クロスオーバー」という言葉。初めはファッションや芸術、デザインなどの業界で「跨界合作(クロスオーバー・コラボレーション)」が流行り、話題になった。最近では、コラボレーションだけではなく、個人や企業がそれまでの専門と異なる業界で事業を展開することも指すようになっている。

例:

- ◆ 媒体跨界融合是个热门话题。  
メディアのクロスオーバー・コラボがホットな話題だ。
- ◆ 音乐制作人跨界当导演。  
ミュージシャンがクロスオーバーして監督になる。

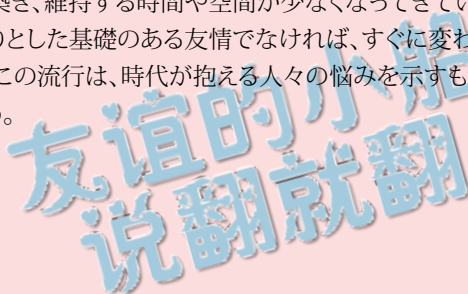


# yǒu yì de xiǎo chuán shuō fān jiù fān 友谊的小船说翻就翻

「友谊」は友情、フレンドシップ。つまり「友谊的小船」で「友情の小船」だ。そして「翻船」は船が転覆すること。「说……就……」は構文で、「(…の動作・状態が)あつという間に…する」という意味。「友谊的小船说翻就翻」を直訳すれば「友情の船はあつという間に転覆する」、つまり、友情は試練に耐えられず、すぐに終わってしまうという意味になる。

これは最近、ソーシャルメディアで流行している、漫画家の喃東尼が描いた「友谊的小船」にちなんだ言葉。漫画には灰色と黄色の太ったペンギンが一隻の小船の両端にバランスを取って乗っている。そのうちの一匹が突然やせたらどうなるかという考えから「友谊的小船说翻就翻」は生まれた。この漫画によって、喃東尼の「微博」をフォローするファン数はあつという間に93万人に達した。

この構図は「帆船体」と呼ばれ定着し、ネットユーザーの二次創作の題材にされた。このペンギンの片方がもし、外交官であれば、マスコミであれば、北京の人であれば、などなど職業や所属、出身などによって対話の内容を変えたバージョンが次々と作られ、ネット上に広まっている。現代社会を生きる人々は皆プレッシャーを抱えており、友情を築き、維持する時間や空間が少なくなってきた。しっかりとした基礎のある友情でなければ、すぐに変わってしまう。この流行は、時代が抱える人々の悩みを示すものなのだろう。



■ 谢东  
(しゃ・とう)

1992年入局。中国語講座関連の番組「キーワードチャイナ」や「文法ノート」などを担当。言葉は生きものという考えのもと、教えるというよりも、リスナーの皆さんと一緒に勉強していく気持ちで日々努力している。

北京市出身。1992年北京師範大学日本語学部卒業。2004年～2005年慶応義塾大学メディア・コミュニケーション研究所客員研究員。

# イチオン! 中国映画 中国音楽



## ■閔亦氷(みん・いひょう)

音楽や映画、生活などさまざまなジャンルの番組を手がけ、10年以上ラジオのパーソナリティとして活躍。2015年から日本語部映像担当プロデューサー。カメラを通して中国の最新情報と魅力を発信しています。

北京出身。北京外国語大学日本語学科卒。



## 大魚海棠 (Big Fish & Begonia)

公開日:2016年7月8日

監督:梁旋(リャン・シュエン)

張春(ジャン・チュン)

2016年の夏休みに中国映画で最も期待を集めていたのが、新作アニメ映画『大魚海棠』。これは戦国時代の思想家・荘子の「北冥に魚あり、其の名を鯀と為す」の物語を原案に企画されたもの。『山海経』『搜神記』といった古書や古代神話の要素も取り入れ、神話と伝承が絡み合った中国色の強いファンタジー作品に仕上がっている。梁旋監督が12年かけて完成させた渾身作で、日本のジブリ作品にも劣らない圧倒的な映像美は全世界からも注目された。



## 我不是潘金蓮 (I Am Not Madame Bovary)

公開日:2016年9月30日

監督:馮小剛(フォン・シャオガン)

主演:範冰冰(ファン・ビンビン)

郭濤(グオ・タオ)

ベストセラー作家・劉震雲の同名小説が原作のこの作品。映画化にあたってヒットメーカーの馮小剛がメガホンを取った。話題をさらったのは、主演の範冰冰がこれまでの都会派美人のイメージを脱ぎ捨て、農村に住むみずぼらしい女性という役どころに大胆にチャレンジしたこと。名誉挽回のために20年かけて奔走する一途な女性の姿を描いた人情味あふれるシリアスな作品で、国慶節連休に合わせて一般公開された。





**自傳**  
**(HISTORY OF TOMORROW)**  
 五月天(メイデイ)  
 発売日: 2016年7月21日

台湾のトップバンド、五月天が前作の『第二人生』以来約4年半ぶりとなる9枚目のスタジオアルバムをリリース。「もしあの人に会わなかったら」と自身に言い聞かせながら、これまでの人生に登場した一人一人に思いを巡らせ書き下ろした、「過去と未来をつなぐ」一枚となっている。このアルバムをひっさげて8月26日からは全国ツアー「Just Rock It 2016」がスタート。初公演として、北京五輪のメインスタジアムである「鳥の巣」で3デイズを敢行し、30万人を動員した。ツアーは10月29日にかけて西安、成都、上海など主要6都市を回っていく。



**日常**  
**(Day By Day)**  
 田馥甄(ヒビ・ティエン)  
 発売日: 2016年7月13日

台湾の人気グループS.H.E(エス・エイチ・イー)の田馥甄が2年ぶりとなるソロアルバムをリリース。前作『渺小』のシリアスな世界観から一転、日常生活の様々なシーンをスケッチ風に描いた小品的一枚だ。韓国の制作チーム「VISUALS FROM.」との初コラボにより新鮮なヴィジュアルに挑戦した軽快なロックナンバー「人間煙火」や鬼才・陳映蓉監督がMVを手掛けた切ないバラード「余波蕩漾」のほか、自身も出演した人気劇団「莎士比亞的妹妹們(Shakespeare's Wild Sisters Group)」のミュージカル『小夜曲』のために書き下ろした新曲の数々を収録。ミュージカル女優としての魅力も見逃せない!



**今日営業中**  
**(Sell Like Hot Cakes)**  
 林宥嘉(ヨーガ・リン)  
 発売日: 2016年6月17日

兵役を終えて初となるフルアルバムを発表した林宥嘉。この新作は、ファン待望の4年ぶりとなる5thアルバム。6月に台湾からスタートしたワールドツアー「The Great Yoga」に合わせてリリースしたもので、今年の夏はヨーガファンにとって最高の思い出となったことだろう。今作は日々折々に感じたことや、忘れかけていた気持ち、そして夢をいっぱい詰め込んで、360度「ヨーガ・ワールド」が楽しめる一枚だ。「林宥嘉+JerryC+楊子樸+林夕」の強力タッグによる、とっておきのスタミナ・ソング「熱血無頼」をはじめ全13曲を収録。

## ようこそCRIへ

この夏も長野から若いお客さんがやってきました。8月中旬から9月初めにかけて、長野工業高等専門学校と長野県短期大学からの訪問団が、それぞれCRIで研修や交流を行いました。

### 「180° 印象が変わった」 ～長野高専～

8月20日～9月3日、大矢健一先生が率いる長野工業高等専門学校の学生4人が実務訓練のため、北京を訪れました。今年の参加者は男子4人。中国を初めて訪れた、彼らの感想をピックアップします。



CRI前で記念撮影

### こんなにも楽しい時間

電子情報工学科3年 三澤大貴

高校3年になる自分に「何かやらなきゃいけない」という気持ちがかみ上げ、見知らぬ土地で言葉が通じないというスリルを味わいたくて参加を決めました。

観光で印象に残っているのは、頤和園です。とても大きな人工の池があり、その中心にある石の橋を渡りました。山に隠れる夕日と池、石橋の良い写真が撮れました。

現地で知り合った日本語を学ぶ学生たちとの観光では、互いに教えあったり、食事をしたり、国境を越えた交流もとても楽しいものでした。

研修ではCRIの日本語部にお世話になり、ラジオ番組にも出演しました。日本語部の皆さんや、書道の先生との交流では、食事やスポーツ、日本語の発声練習や習字を通して友好を深めていきました。

いつもはなかなか出会いがない自分に、こんなにも楽しい時間があったいいものだろうかと不安になるくらい、精一杯楽しむことができました。



### 文化の違いを楽しめた2週間

電子情報工学科3年 寺嶋涼平

中国での2週間は長いようで短い、あっという間の時間でした。

研修の中では中国人学生との交流もあり、同世代ということもあって、とても楽しく文化の違いなど色々な話で盛り上がりました。しかし、ほとんど日本語での交流だったので自分ももっと中国語を勉強しておけば...という後悔と、これからもっと勉強していこうというモチベーションになりました。

観光では特に頤和園と万里の長城が印象に残っています。日本では考えられないような広さと大きさに驚き感動しました。

また、本場の中華料理はとても美味

しかったです。特に美味しいと感じたのは小籠包でした。果物も色々なものを、市場などで買って食べました。スイカはととても大きいものが約10元(約150円)と日本では考えられない価格で驚きました。味も日本とほとんど変わらず美味しかったです。



### 海外への第一歩

電子情報工学科3年 早川海都

中国には正直、良いイメージを持っていませんでした。しかし、実際に訪れると、皆さんとても明るくいきいきと生活を送っていたり、中国語を話せない私にも親切に接してくれたりして、人々の温かみを実感しました。新発見の毎日でした。

CRIでは、中国の研修生の方々との交流を行いました。私は、研修生の方々の日本への思いを感じました。皆さん、日本語を流暢に話したり、日本のことをとてもよく調べたりしています。自分が中国語をほとんどできないことや、中国の知識がないことに、申し訳なさや後悔を感じました。

訓練の最後にはラジオで中国と長野の関係について紹介を行ったのですが、そのおかげで、中国のことをもっと知りたい、そして長野についても、もっと知ってほしいという気持ちが一層強くなりました。

今度は中国語を話せるようになっ

て、また中国を訪れたいなど思いました。



## 生の中国を体験してほしい

電子制御工学科4年 中村順

日本人は「中国」に、食品問題などマイナスのイメージを持っているようです。これはマスメディアからの情報によるものなのでしょうか。それを知りたくて中国へと向かいました。

空港に降りたつと、どこことなく黄色いモヤがかかっています。ところが夜には、星が見えて驚きました。

食べ物について、本場の中華料理は口に合わないと思っていました。ところが、沢山の香辛料の味付けは、まるで合唱団のよう。一口食べると、旨味と食感のえも言われぬ美味しさ。そして鼻から抜ける香りが余韻となって音のように微かに広がる。これが庶民的なお店でさえも楽しめるから驚きです。

また、中国では日本のおもてなしとは違う「家族のように接する温かみ」を感じました。家族のように居心地がいい。日本人が忘れてのことかもしれません。

日本人にはもっと訪中し、メディアのフィルターのかからない生の中国を体験して、中国の良い面に触れてほしいです。



## 世界平和への種蒔きに

長野工業高等専門学校  
電子情報工学科 准教授  
大矢 健一

4年前の夏に単身で上海に来た際、人々の雰囲気たちまち魅了され、将来は中国で暮らしたいと思い、帰国後にすぐ孔子学堂に通い始めました。その1年後にCRI日本語部を初めて訪れ、私の学校のインターンシップをお願いしたところ、昨年、ついに実施できることになりました。

北京に日本の学生が来てくれるだろうか？という不安は大きかったのですが、昨年の第1回は3名が参加してくれました。今年も学生を募集したのですが、事前説明会に来たのはなんと1名…。結局4名参加してくれることになりましたが、やはり保護者の心配が大きいようです。

中国のニュースといえば、大気汚染や大きな事故。ところが、実際に中国に来てみると、すでに先進国であり特にITは進んでいるし、それでいて家族愛に代表される古からの伝統も残っていて、なんとも暮らしやすい場所であることに驚かされます。今年参加した4名も、印象が180度変わったとのことです。

私自身としては、来年以降も是非続けていきたい、より多くの学生に中国を体験してほしい、と思っています。教育とは種を蒔くようなものですが、学生たちに中国に来てもらうことも、世界的な平和への種蒔きになっていると信じています。



## 学ぶ、実践、そして観光 ～長野県短大～

9月6日～12日、長野短期大学から5名の学生が、語学研修のためにCRIにやってきました。中国語講座番組を担当する高橋恵子アナと謝東アナによる毎日の授業は、習いたての中国語を実際に街に出て試すという、現地ならではのスペシャル課外レッスン付きです。引率の立石昌広先生と共に、CRISタッフのガイドで北京故宮や万里の長城などの世界遺産もめぐり、北京を堪能した皆さん。研修最終日に修了証書を受け取る笑顔が印象的でした。



後列左から カジタカオリさん、井原愛さん、立石昌広先生  
前列左から 斎藤梨央さん、北原涼子さん、土屋舞夏さん、謝東アナ



最終試験を終え、修了証書を手記に記念撮影



高橋恵子アナのガイドで世界遺産・頤和園を散策

# リスナーからのお便り

非常感謝  
您的来信!

■番組名:教えてイーカン先生!  
■埼玉県川口市 小笠原広行さん  
リオ五輪で寝不足気味です(笑)  
五輪競技名の中国語は、クイズのようで楽しかったです。

## 新しい「かけはし」について

■愛知県 杵本直正さん

以前のものとは変わり、冊子タイプになりましたね。読みやすくなりました。

整理がしやすいです。

■神奈川県川崎市 及川三晶さん

「和して同ぜず『東北アジア書画展・2016』に目を惹かれました。

現在の中国、真の中国の一端を知ることができることに感謝いたします。

■愛知県刈谷市 田畑節生さん

「文字で見る『北京の表情』」のページでは、6月1日が子供の日にあたるということで、中国の子供の姿がよく表れていると拝見しました。

## 番組の感想

■番組名:キーワードチャイナ

■北海道旭川市 武井明さん

取り上げられる言葉から中国人のたたちの考え方が理解できるので、楽しく聞いています。

■番組名:ライフ・マガジン

■愛知県清須市 鈴木英夫さん

中国人の海外旅行も「旅」そのものを楽しむようになってきているようですね。

■番組名:チャイナ・エクスプレス

■三重県津市 川添充則さん

中国のIT利用が急速に進んでいる様子が分かりました。

■番組名:CRIインタビュー

■東京都西多摩郡 小野崇夫さん

三田満さんの回が非常によかったです。

当時の建前と本音など、戦争に「反対」の声が上げられない状況が理解できました。

## リオ五輪について

■広島県福山市 西村敏弥さん

北京オリンピックからもう8年ですか。私はあの頃からBCLを再開しました。

これからもよろしく願い申し上げます。

※BCL:海外放送を聴くこと

■岐阜県美濃市 平野精一さん

女子バレーボール決勝の中国とセルビアとの試合を見ていました。決勝戦の応援団はすごかったですね。

「かけはし」や番組へのご意見・ご感想をEメール、お便り、SNSなどでお寄せ下さい!

E-Mail: riyubusns@126.com

郵便(日本): 〒152-8691

目黒郵便局 私書箱78号 宛

郵便(中国): 100040

中国国際放送局日本語部 宛



# 広島大学北京研究センター主催 第11回日本語作文スピーチコンテスト

- 2016年11月12日(土)14時30分から17時30分
- 首都師範大学国際文化学院大ホール

日本を代表する国立大学の一つである広島大学は、2002年10月、首都師範大学国際文化学院の中に広島大学初の海外教育研究拠点である北京研究センターを設置しました。

広島大学北京研究センターでは、2006年から毎年中国の大学で日本語を学んでいる学生を対象に「日本語作文スピーチコンテスト」を開催しています。コンテストの目的は、(1)中国における日本語教育の成果の発表機会を提供する、(2)日中文化交流(異文化コミュニケーション)に寄与する、(3)日中翻訳文化形成に寄与することにより、コンテストには毎回多数の大学から、多数の日本語を学んでいる学生の参加があります。



2015年第10回大会の記念撮影

11回目をむかえる今年のテーマは、「米」。中国各地の34大学から応募がありました。各大学から推薦される作文には5編以内という決まりがありますが、当初大学に提出された作文は700編を超えるものでした。応募大学、学生の数は年々増えています。応募された学生のみならず、もちろんのこと、作文の指導に労を執っておられる先生方にも感謝の意に堪えません。

今回から中国国際放送局の協力のもと、コンテストに新たな試みとして、音声審査を加えました。この音声審査には、みなさんからのインターネット投票の結果も加味します。そして、優秀者選ばれた選手が11月12日(土)、首都師範大学にてスピーチを披露し、優勝者を決定します。

コンテストの優秀作文は、白帝社から『日中友好の架け橋』として出版される予定です。

コンテスト問い合わせ先：北京市海淀区西三環北路83号  
首都師範大学国際文化大厦南楼310室  
広島大学北京研究センター  
TEL/FAX：010-6890-0443  
Mail：bj\_hirodai@yahoo.co.jp

コンテストホームページ：http://rzyb.hiroshima-u.ac.jp/

特別後援：中国国際放送局東北アジア中央アジア地域放送センター  
特別協賛：公益財団法人渋谷育英会、福山通運株式会社、上海福山国際物流有限公司、公益財団小丸交通財団  
共同主催：首都師範大学日本文化研究中心、福山大学北京教育研究センター  
後援：在中国日本国大使館、中国教育国際交流協会、国際交流基金日本文化センター、日本学術振興会北京研究連絡センター、外文局全国翻訳専門資格考試弁公室、中国中央編訳局翻訳部、福山市教育委員会  
協賛：株式会社にしき堂、オタフクソース株式会社

(広島大学北京研究センター長佐藤暢治)

# 『日本で実践！中国語』 中国語学習の新角度 Podcast ダウンロード数 7万回突破!!

中国語に興味があるけど  
中国に行くチャンスが  
あまりないなあ～

中国人が引っ越してきた!  
かんたんな中国語で交流  
してみたい!

中国人に道を聞かれた!  
けど、言葉が通じなくて  
手伝えなかった…悔しい!

中国人観光客が増え  
てきて、言葉のやりとり  
に一苦労…

そんなあなたにピッタリの  
中国語講座番組が  
『日本で実践！中国語』  
です!

## パーソナリティ



張怡康



梅田 謙

### ■ 番組紹介

この講座では、「日本で中国人と出会った時に使える中国語会話」をテーマに、様々なシチュエーションにおける会話をご紹介します。番組の終わりには「リアル中国語」、「梅田が実践！中国語」など、中国の生の声をお届けするおまけコーナーも!

毎回10分のラジオ講座で、無理なく学べます。また、Podcastとホームページでは第一回の基礎編から配信中。いつでもどこでも繰り返し聴くことができますので、初心者の方も安心してお聴きいただけます。

もちろん、覚えた構文は中国に来た時にも使えますよ!

この番組は以下の方法でお聴きいただけます。

### ☆Podcast

週一回更新、月平均ダウンロード数 1万5千回!  
iTunesやPodcast対応アプリから「中国語」あるいは「日本で実践」で検索してください。

### ☆CRIラジオ

毎週火曜日 18:10～23:10  
(10分番組を1時間おきに6回くりかえし放送)  
毎週金曜日 18:10～23:10  
(火曜日の再放送)

### ☆CRI日本語ホームページ

ホームページには音声だけでなく、テキストと画像も掲載しております。  
CRI日本語ホームページ上部の「中国語教室」リンクよりお進みください。  
URLはこちら→<http://japanese.cri.cn/>



# 日本語版「中国百科」新発売！

中国国際放送局日本語部が編集・翻訳した日本語版「中国百科」の日本での出版が実現しました！

『中国百科』は、世界各国のみなさんに中国文化を多角的に理解してもらうための活動であるCRI(中国国際放送局)多言語図書プロジェクトの1つです。中国語版が2003年にウェブサイト「国際オンライン」で発表された後、多言語版の翻訳がスタートし、現在までに36の言語版を出版しています。

今回の出版に至るまで約3年の歳月を要しました。CRIが日本で中国関連の本を出版するのは初めてのことです。そのため、いろいろな課題がありましたが、無事に乗り越えることができました。この場を借りて上海交通大学出版社の多大な協力と支援に感謝の気持ちを表したいと思います。また、この本の出版のために尽力して下さった方々にもお礼申し上げます。

そして、読者のみなさんが、存分に日本語版『中国百科』を活用していただくことを望みます。

本体価格：2,800円＋税

日本全国の書店で取り扱い。Amazonでの購入も可能。



注文書

---

注文数

**中国百科**

中国国際放送局日本語部 編訳

科学出版社東京株式会社  
FAX03(6803)2928

2016/08

【新刊委託】

**●インターネットで公開された中国のすべてをこの1冊に集大成！！**

中国という国をより深く理解していただくため、政治、経済、外交、歴史、世界遺産、観光地、建築物、文学、民俗、芸術、古代の偉人等々を、写真とともにわかりやすく紹介。

『中国百科』は、世界各国のみなさんに中国文化を多角的に理解してもらうための活動であるCRI(中国国際放送局)多言語図書プロジェクトの1つ。中国語版が2003年ウェブサイト「国際オンライン」に発表された後、多言語版の翻訳がスタートし、現在までに36の言語版を出版。

【目次】

はじめに | 中国のあらまし

1章 政治・経済・外交

2章 歴史

3章 観光

4章 建築

5章 世界遺産

6章 古典文学

7章 民間物語

8章 紙上考古博物館

9章 民俗

10章 民間芸術

取引先名：JRC 八木書店  
日産・トハン・大塚屋書店

**FAX:03-6803-2928**

科学出版社東京株式会社  
〒113-0034 文京区湯島2-9-10  
TEL:03-6803-2978

**10月上旬発売!**

**中国百科**

中国国際放送局日本語部 編訳

定価：2,800円＋税  
ISBN978-4-907051-13-6  
C0022 360頁 A5判並製



清代のタンカ「拉萨釈迦三尊」

タンカとは掛け軸形式の宗教画のことで、チベット語で「広い」を意味します。  
 2009年にユネスコの無形文化遺産に登録されました。  
 (写真提供:中国タンカ文化研究センター)

■ SNSで観るCRI (各SNSプラットフォーム)



@CRI日语频道



@CRIJpn



CRI日语频道



CRI日本語



CRI日语部



YouTubeアカウント  
 CRI日本語



CRIの人気番組をPodcastでも配信中!

iTunesや対応アプリから「CRI」で検索。

配信番組: CRIニュース、ハイウェイ北京、中国語講座 ほか